

令和7年度徳島県立近代美術館協議会会議録

1 日時 令和7年12月4日(木) 14:00~16:00

2 場所 徳島県立近代美術館講座室

3 出席者 [委員] 10名中6名出席

4 会議次第

① 開会

② 館長挨拶

③ 委員紹介・職員紹介

④ 議事

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 令和6年度事業実施状況について

(3) 令和7年度組織・予算及び事業概要について

(4) 徳島県立近代美術館 運営計画に係る「中期計画・中期目標」について

(5) その他

〈報告事項〉

・近代美術館 贋作事案について

⑤ 閉会

5 会議概要

(1) 会長・副会長の選任について

会長に小川委員、副会長に兼松委員を選任

(2) 令和6年度事業実施状況、(3) 令和7年度組織・予算及び事業概要について

事務局から説明及び質疑応答

委員	令和6年度の入場者数については、出張して美術に触れる機会を持っていた方は含まれていないのか。
事務局	そういった人数も含んでいる。
委員	少し前、ニュースで見たが、普段なかなか美術館を訪れることができない方にも楽しんでいただけるような機会を今後も創出していただきたい。
委員	入館者数を見ると、令和5年度からかなりの伸びが見受けられる。地域全体での活動ということがやはり今後重視されてほしい。入館者数の

	みならず、そういった方面での活動をアピールする上でも、それが分かるような形で記載していただきたい。
委員	収蔵資料の方で、伊原宇三郎がかなりの点数を寄贈されているが、寄贈者の記録はどうなっているのか。
事務局	展示するときに記載する場合もあるし、御本人が名前は出さないということであれば、「個人の方から」とお答えすることになっている。
委員	年報とか、記録を参照したいとなると、寄贈者名というのは明示することになっている。個人から寄贈にしてほしいという時はあるが、できれば資料の来歴を知る上で入れておいていただきたい。
委員	1階のギャラリーも今年照明が一新されるということで非常に楽しみにしている。什器もおそらく開館当初のままで、メンテナンスをしていただきたい。
委員	令和7年度予算を見ると展示事業費が、35周年ということでかなりの増額にはなっている。特に美術運送とかがかなり値上がりしていて、令和7年度、「美術と野獣」展が広範囲に集荷されているので、どんな工夫をしたのか。
事務局	メンテナンスができていないというのは改善していきたいと思っている。 輸送は想定している以上にどんどん値段が上がっているのので、輸送経路を相談し、業者の方も工夫していただく中で、野獣展については開催できた。
委員	収入を増やす取り組みとして、1階にあるショップの売り上げについて報告は上がっていないのか。
事務局	展覧会をした場合の図録などは事前に単価いくらという割合を決めて、収入として館のほうで計上している。
委員	展示室からショップまでが離れているので、行きそびれてそのまま帰ってしまうケースがある。ショップ売上も1つの収入源であれば、出口にできるだけ近い動線の範囲内でショップを配置するなどしてはどうか。
委員	館の収入は予算に反映されるのか。
事務局	展覧会だけで収入を上げるのは難しい。物販は人気があるので、例えば実行委員会形式での場合は考えたい。お客様のニーズを感じている。
委員	ショップは、単に利益を上げるだけでなく、ユニバーサル美術館とは何かということということを伝える、発信する機会にもなる。
委員	令和6年度の特別展「ユーモア展」と「エミール・ガレ展」に足を運ばせてもらった。近代美術館の展示を見るたびに、本当に丁寧に作られてい

	る、学芸員のこだわりもひしひしと伝わる展示ばかりだと感じている。
委員	ICOM の定義で、美術館がより包摂的にインクルージョンとか、EDI (equity, diversity, inclusion) もしっかり入れていくというのが入ってきた。ユニバーサル美術館事業をずっと進めてこられたが、当事者を入れた活動は計画の中にあるのか。意思決定に当事者の方も入れていくべきだという話もある。
事務局	ユニバーサル事業というのを掲げて始めたとき、どんなものなら行きたいかというのは、やはり自分で考えてもらうのがすごく大事だということが最初に分かった。今アートイベントサポーターには、障がい特性のある方が、入ってくださって、私たちだけでできないことを一緒にできている。研究者や学芸員が何か先進的なことをやっているというよりは一緒に考えているところを、大臣表彰でも評価していただいた。 毎年工夫するので精一杯なところもあるが、御意見は本当にユニバーサル事業の芯のところだと認識している。
委員	県南とか海部の方に行くと、一生で 1 回も美術館に行ったことがない方々もまだまだたくさんいらっしゃるという状況。大学としても協力して、是非徳島の文化振興に務めていければなというところである。

(4) 徳島県立近代美術館 運営計画に係る「中期計画・中期目標」について
事務局から説明及び質疑応答

委員	令和 6 年度の鑑賞シートの配布数がとても少ないが、理由があれば教えていただきたい。
事務局	要因としては、新しいシートの手引でまだ公開できていないものがあることと、メッツァンジェ作として扱ってきた作品が含まれていたアートカードが、出せなくなっていることがある。
委員	手に取って実際に眺めて描く活動は大事だと思う。鑑賞シート自体がデジタルなどに形を移行しても鑑賞シートの配布は続けてもらいたい。
委員	聞こえない、見えないという方も楽しめるようにということで、インクルーシブな手話通訳は、視聴覚障がいの方でも手のひらで手話をするとその意味が分かる。そういう通訳ができる方も、サポーターとしてどんどん参画して一緒に研修を受けるような機会を設けていただきたい。
事務局	去年のアートにタッチ展で、元々の発想は体で直接的に参加する、その中で興味があることがあったら、やさしい日本語などで美術館の楽しみ方を体験する場を少しでも増やしてもらおうという意図があった。盲、聾の団体と一緒にやって、触っていいということと、手探りで遊ぶコーナーなど、大変喜んでいただいた。コミュニケーションが生まれる場所が、アートにより生まれる可能性はあると思っている。

委員	みんなで一緒に色々な方が楽しめる美術館というところで、取り組んでいると結果は自ずとついてくるのではないかと信じている。是非これから、この姿勢で進めていただきたい。
委員	自己点検・自己評価というどうしても数字・数値に還元されるものでないと評価されないが、現場でのフィードバックというものが本当の自己点検であり自己評価で次へ繋がる。数値として示すことはなかなか難しいところ。

(5) - 1 報告事項(欠席委員から書面意見書あり)

事務局	<p>今日欠席の委員から、書面で意見書をいただいている。</p> <p>県民に開かれた事業というのを着実にやっているところは評価。特に現代作品の素材の多様化、保存分野の重要性というところで記録の蓄積や継続的な調査に力を入れてもらいたい。中期計画目標について、来館者属性をしっかりと分析して、その事業の到達点というのも明確にしてはどうかということ、小規模でも情報交換の場を作って県内全体で底上げしていったらいいという御意見。贋作事案についても、公表しているところが信頼向上につながる。贋作に限らず、作品調査の体制を継続的に発信していくのがよいという意見である。</p>
-----	---

(5) - 2 報告事項(近代美術館 贋作事案について)

事務局から報告